

耐侵食性向上工法の開発

【目的】

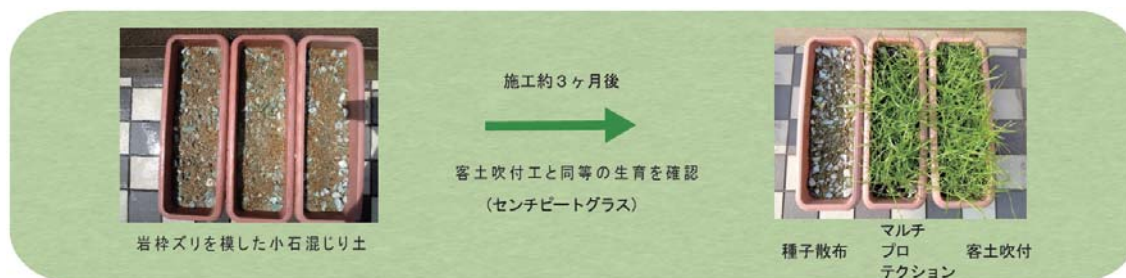
- 近年の激しい豪雨により、侵食被害が増加しています。侵食被害を受けた場所の復旧には時間がかかるため、耐侵食性の高い工法が望まれています。

【耐侵食性向上工法とは】

- 「マルチプロテクション工法」は、分解速度の異なる複数（マルチ）の生分解の繊維を地表面に吹付けることで、侵食防止・汚濁水発生防止・飛砂防止・周辺からの植物侵入などが期待できる地表面処理工です。
- 使用するマルチング材は天然素材のものであり、微生物によって分解され土壌養分となります。



【実証試験 1：植生の阻害】



【実証試験 2：侵食防止試験】

	植生基材吹付工のみ	植生基材吹付工 マルチプロテクション工法
施工直後		
10ヶ月後		
浸食量平均	2.7mm	1.9mm (無処理の70%減少)
植被率	3%	10% (無処理の3.3倍)

【実証試験 3：侵入種の活着（自然侵入促進工）】

	客土吹付工	マルチプロテクション工法
写真		
表面形状	主材料の細粒パーク堆肥やビートモスは6mm以下のものを使用するため、仕上がり面が均一化している。	マルチプロテクション材は30mmの目合いを通った繊維状の天然素材を使用しているため仕上がり面に微少な凹凸ができ、この部分が植物の種子が定着する場となる。
評価	自然進入促進工として考える場合、『周辺からの飛来種子が定着しやすいようにするため、表面を凹凸に仕上げるのが有効である ※1』とされている。	

※1・・・国土交通省 国土技術政策総合研究所(2013)地域生態系の保全に配慮したのり面緑化工の手引き(国総研資料第743号), p1-41.